

○ 読書指導の充実はどのように図られているか。

読書の指導については、目的に応じて本や文章などを選んで読んだり、それらを活用して自分の考えを記述したりすることを重視して改善を図っている。また、日常的に読書に親しむために、学校図書館を計画的に利用し必要な本や文章などを選ぶことができるように指導することも重視している。

具体的には、読むことの指導事項に、次の「目的に応じた読書に関する指導事項」を新設するとともに、高学年では「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」を示している。

指導事項	第１・２学年	第３・４学年	第５・６学年
目的に応じた読書に関する指導事項	カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。	カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

また、次のように、物語や詩、伝記などの創作や、説明などの多様な本や文章を読んで感想を述べたり考えを表現したりする言語活動例が示されている。

【読書に関連する言語活動例】

第１・２学年	第３・４学年	第５・６学年
ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。 ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。 オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。	ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。 ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。 エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。 オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。	ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。 イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。 ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。 エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。